



白聖

はくあ 第4号 令和8年5月21日発行



《進路資料を活用しよう》

今月の中旬に令和8年度『進路資料』が刊行されました。既に全校生徒の皆さんに配布されていますので、目を通した人もいます。特に1年生は今月中に第1回進路志望調査が実施されたので、先輩方の進学先を参考にして自分の志望校を決めた人も多かったのではないのでしょうか。

この『進路資料』は、この春に卒業した76回生の進路状況をはじめとして、最近5年間の入試結果が詳細に掲載されています。他にも主な国公立大学の過去25年間にわたる合格状況の推移、最近3年間の大学入試共通テストの自己採点結果など、他では知ることができない青高の進路情報が満載となっています。また、受験結果だけでなく大学受験のしくみについても詳しく解説しており、出願大学決定までの流れや、一般選抜はもちろん学校推薦型選抜（指定校推薦を含む）や総合型選抜といった受験方式の違いを理解するために役立つものになっています。さらに後半の「合格体験記」には、大学合格を勝ち取った先輩たちの努力の軌跡が記されています。

「合格体験記」を読んでみると一人ひとりの弛まぬ努力と強い精神力、そして先生方との厚い信頼関係など、どの生徒も全力で高校3年間で駆け抜けた様子が読み取れて感動を覚えます。きっと読み終えた後には、皆さんにもやる気みなぎってくる内容になっていますので、勉強の休憩がてら定期的に読むことをオススメします。

大学入試は、毎年のように変化しており、数年前の情報とまったく通用しないほど目まぐるしく多様化しています。常に正しい情報を把握することも、進路目標の達成には必要不可欠です。HR活動の時間や学年集会などで『進路資料』を活用して内容を確認する機会があると思いますので、必ず記名をして紛失することがないように各自で保管してください。そして生徒の皆さんだけでなく、保護者の方にも『進路資料』をしっかりと熟読していただき、情報を共有した上で、今後の学習や進路決定に活用してほしいと思います。



《難関大学を目指すべき理由は？》

皆さんは将来の選択肢を広げたいと思ったときに「できるだけレベルが高い大学を目指した方がいいのかな」と考えたことはありませんか。将来何となく有利になりそうなイメージはあるけれど…と漠然と思っている人も多いのではないのでしょうか。今回は難関大学を目指すべき理由についていくつかの項目に分けてまとめてみましたので、参考にしてみてください。

【周りのレベルが自分を伸ばす】

難易度が高い大学ほど、周りに勉強熱心な人や意識の高い人が多くいるため、刺激を受けやすい環境といえるでしょう。そのような環境では、あなた自身にも良い変化が起きやすくなります。周りに刺激されて「自分ももっとやろう」と思えてくるし、当たり前前の基準が高くなるので、自然と実力が伸びてくることでしょう。グループワークや議論のレベルが高いため、思考力やコミュニケーション力が鍛えられることも期待できます。こうした人間関係や刺激は、教科書だけでは得られない学びになり、「自分一人の努力」では届かないところまで、環境の力で引き上げてもらえるのが大きなメリットです。

【教員・カリキュラム・設備の質】

難易度の高い大学ほど、研究実績のある先生や専門性の高い授業が集まり、第一線の研究者から学べる環境や機会が整っています。最先端の研究や知識に触れることができたり、教員のネットワークからインターンシップや進学情報が得やすかったりします。研究や教育に必要な予算も潤沢で、図書館や研究設備、留学制度や学内イベントなどの質が高いことや、企業との共同研究も活発なため、卒論や研究テーマの選択肢が大きく広がっています。「せっかく大学に行くなら良い環境をフル活用した方が、コスパが良い」と考えることもできます。



【進路や選択肢の広さ】

難易度の高い大学は、卒業後の進路の幅が広くなります。大学院進学や海外留学などの情報も入りやすいことが多くあります。就職活動では、企業の説明会やインターン募集が集まり、企業からのエントリー条件を満たしやすいといわれ、公務員試験や大学院進学など、学力が必要な道にも進みやすいと考えられます。仮に進路変更したくなったときも、選択肢が残りやすいため、「将来やりたいことがまだはっきりしていない人ほど、できるだけ高いレベルを目指しておいたほうがよい」と言われることもあるくらいです。

【人脈とつながり】

どの大学に行くかで、出会う人の傾向がかなり変わります。同級生や先輩の進路も多様で、有名企業や人気企業の採用実績が多いというだけでなく、卒業後もOB・OGネットワークから情報やチャンスを得やすく、選べる業界や職種を選択肢が増えます。将来さまざまな業界で働く人と知り合えるという「つながり」が一生ものになる場合があります。仕事の能力だけでなく、ものの考え方や生き方にも影響を与えます。ただし、難易度の高い大学に入っただけで自動的に良い会社に行けるわけではなく、自分の努力次第という面も忘れないでください。

【挑戦経験そのものの価値】

例え難易度の高い大学に届くかギリギリでも、「高いレベルに本気で挑戦した」という経験には大きな意味があります。受験勉強を通して、自分が大きく成長したと実感した場面があったという報告は、多くの先輩方からも聞くことができました。受験勉強を頑張ると努力の仕方や継続力が身につきますし、もし届かなかったとしても、その勉強量は他の進路でも武器になるはずです。「あのとき本気でやり切ったな」という自信はその後の人生にも大きな影響を与えることにもなります。現在の志望校の難易度（例：偏差値〇〇くらい）に満足せず、より高い目標を目指してみようと思っている人は「もう一段上」の大学について調べてみるとよいでしょう。



【注意しておきたい点】

難関大学を目指すにあたっては「偏差値の高さだけで大学を選ぶのは危険」という指摘もあります。まずは自分にとって本当に学びたい学問・研究分野があるか調べることが大切です。また、校風やキャンパスの雰囲気は自分に合うかも気になるところです。実際にオープンキャンパス等に参加して、学生の雰囲気を感じる機会を設けましょう。しかし、自分の実力と大きくかけ離れた高すぎる目標設定や、無理な勉強をしすぎて心身に大きな負担になってしまうので気を付ける必要があります。

ここまで読んで、自分も高い目標に向かって頑張りたいと考えた人は、是非とも学級担任や進路指導部の先生に相談してみてください。あなたの成績や学習状況から伸びしろや可能性も含めて望ましい志望校を共に考えてくれるはずです。遠慮しないで声をかけてみましょう。

《進路資料ラックを活用しよう》

進路指導部では、生徒玄関前のラウンジスペースと2階職員室（3学年職員室+進路指導室）前に進路資料ラックを常設しています。ラックには大学案内のパンフレットやチラシ、大学新聞や受験情報誌等が所狭しと並べられています。ラインナップは随時更新していますので、定期的にチェックして、気になるものがあれば自由に持ち帰ることができます。

進路指導部には、これから本格的に全国各地の大学から大学教授や入試担当職員の訪問があり、大学案内のパンフレットやチラシを受け取ります。また、郵送で送られてくるものもあり、その量は非常に膨大です。その一部は、2階演習室の大学資料のコーナーに並べてあり、自由に閲覧できるようになっていますが、皆さんが自由に持ち帰ることができるものは生徒玄関前と2階職員室前のラックに並べています。定期的に確認していれば必ず気になる資料が見つかると思います。是非とも積極的に活用して自身の進路研究や志望校決定に役立ててください。

